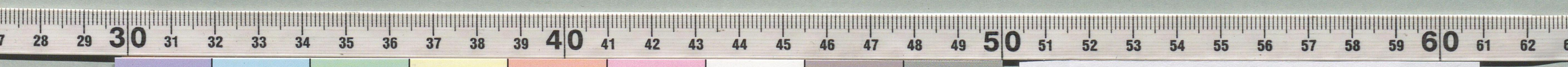
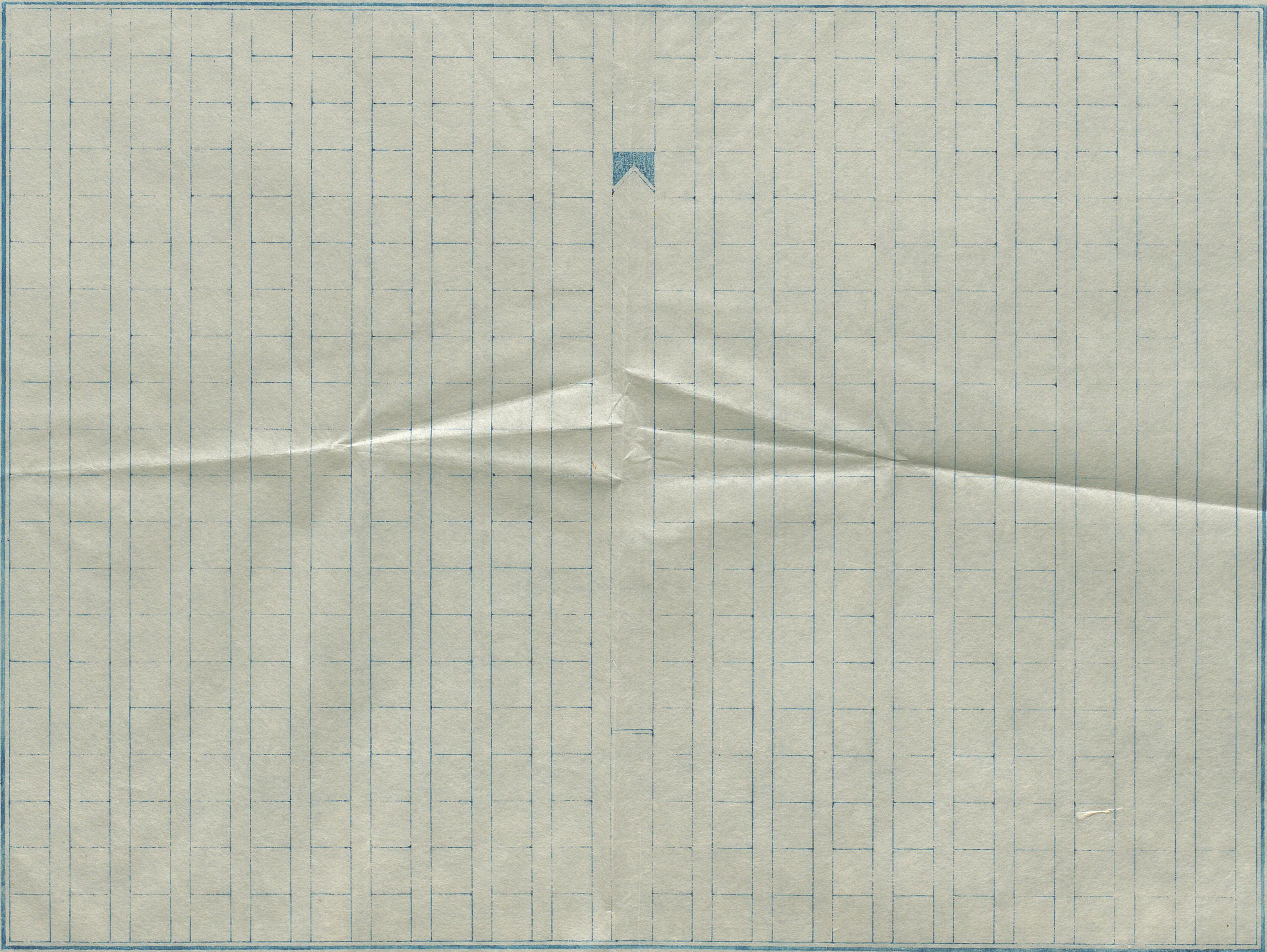


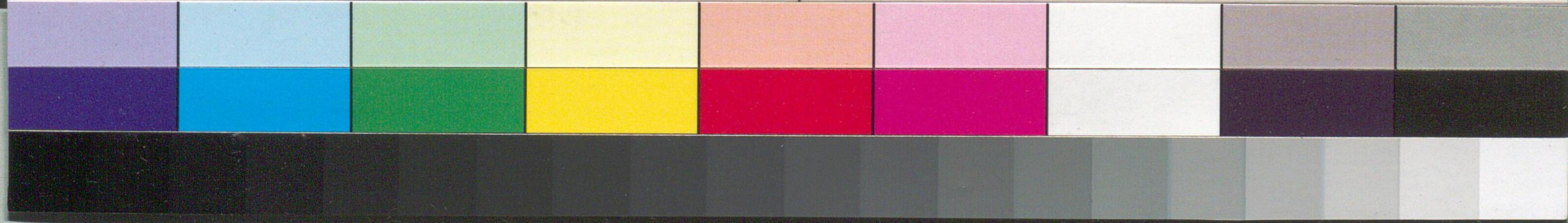
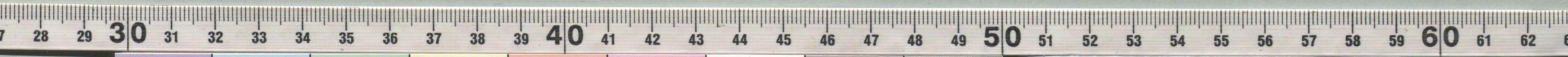
一と断り因小と世の中二思三程四此是程馬鹿
 けと漢語と云ふ手短言一と認徳の起原
 を主観的なる心二下三有四る五ヤ認徳の起原
 と客観的なる物二不三有四ると言ふ認徳の起原の上の
 相違より起る終始哲學研究上は付纏と
 居るの存有るか是れ元来主観的なる心
 と言ふて別々單存孤立二一三の四の五
 ありのてと心客観的の言ふ物と認徳一
 客観的言ふと客観的なる物と認徳一
 ありと一と言ふ作用二向三心四と言ふ名と
 つけてしまつてのあり下有る客観的なる物と
 言ふても別々單存孤立して居る所の一つ
 の物と言ふてのありのてと心客観的
 と言ふと主観的なる心として認徳せしめ
 客観的言ふと主観的なる心と認徳せら
 る一と言ふ方面の作用二向三物四と言ふ名
 とつけてま下の事下有る心客観的のあり物
 のあり物のありうら心客観的のあり物
 らせけと物と云ふ物客観的のあり物と心と
 心と物と常存客観的のあり物と心

東棟原製





東
棧
石
製



と全く同一山と下有るは徳体論上の終る
馬鹿げと証論より由来して哲學研究の方
法上ても倫理的なり方は經驗的なる方
の區別をぬくこと不可なり結局心の方
面より物の方面と能系を以て倫理的な方
とあり物の方面あり心の方面と能系を以
て經驗的なり。官能とあるの不可倫理的なり
方面と能なりと經驗的なりやうもその經驗的
なる方面と能なりと經驗的なりやうもその
不可有るの不可なりと本論法なり